

サステナビリティの取り組み



フジテレビとして初のゼロカーボン番組を実現! 『EXITの未来を本気（マジ）で考えるⅢ～フューチャーランナーズSP～』

フジテレビは、SDGs 推進キャンペーン「楽しくアクション！SDGs」の一環として放送した『EXIT の未来を本気（マジ）で考えるⅢ～フューチャーランナーズ SP～』（1月 28 日（土）14 時 30 分—15 時 30 分）において、初めてゼロカーボン番組を実現した。

同番組は、世界で初めての SDGs をテーマにしたレギュラー番組『フューチャーランナーズ～17 の未来～』（毎週（水）22 時 54 分～23 時放送）の特別編第 3 弾で、今回は「生物多様性」にスポットを当てて放送。番組では今求められる生物多様性とは何か、MC を務める EXIT が実際に井の頭公園などを取材し、どれだけの在来種が生息しているかを調査するなど、都市型の環境保全を体験した。



この番組では、制作開始当初から、「環境に配慮した番組制作のための心掛け」を記した「グリーンメモ」をスタッフ・出演者で共有。ロケ取材や収録に限らず、事前打ち合わせ、移動のための交通手段、編集作業、ロケ弁当などにおいても、環境負荷の少ないものを選択。二酸化炭素（以下 CO₂）排出量を“見える化”することで、環境意識の向上を図りながら番組を制作した。

実際に同番組制作過程で排出された CO₂ は、イギリスの公共放送・BBC が開発したオンラインツール「アルバート」を使用して算定。その排出量は約 1 トンで、排出量分の再生可能エネルギー由来の J-クレジットを、番組スポンサーである MS&AD インシュアランスグループと共同で購入することで実質的にオフセットを実現した。フジテレビとして初めてとなるゼロカーボン番組をスポンサー企業とともに実現した背景には、社会全体で SDGs の取り組みが進展してほしいという共通の思いがある。この試みを参考に、番組において環境負荷が高くなる制作過程を検証し、今後の持続可能な番組作りに生かしていく。

◆「アルバート」とは ALBERT

番組制作に関連して排出される CO₂ の量を算定するオンラインツールで、イギリスの公共放送 BBC が開発し、現在は BAFTA（イギリス映画テレビ芸術アカデミー）が管理する。コンテンツ制作における CO₂ 排出量を“見える化”し、持続可能な制作を促進するもので、現在世界 40カ国 2100 社を越える放送局や制作プロダクション、大手配信事業者などが活用している。